

厚生病院だより

ほほえみ

広報誌

第92号

2025 4. 10

Topics

- 前立腺センター開設
- 訪問看護ステーション開設
- クラウドファンディング
- 災害訓練の実施
- 堀マラソン支援
- 新ロゴマーク決定
- インスタグラム開設



新ロゴマーク
決定!

愛称：ツナグ



PHOTO:河井利恵子「美喜仁桐生文化会館」

基本理念

信頼され、心が通う地域医療



桐生厚生総合病院
KIRYU KOSEI GENERAL HOSPITAL

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170
URL: <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>



(編集 院外広報編集委員会)

前立腺センター

を開設しました

桐生厚生総合病院では、今年4月より泌尿器科外来に『前立腺センター』を開設しましたのでご報告します。この外来の目的は、最近増えている前立腺の病気に対し前立腺専門外来を開くことで、スムーズな紹介、診察の流れを作ることです。

みなさん前立腺はご存じですか？前立腺とは男性だけにあるクルミ大の臓器で、膀胱の下で尿道を取り囲んでおり、年齢とともに肥大することがわかっています。前立腺センターではいろいろな前立腺の病気を扱いますが、主に前立腺がん（疑い）と前立腺肥大症が対象になります。

前立腺がんは日本人男性ではもっとも多いがんです。ほかのがんと比べて進行はゆっくりですが、初期には自覚症状がほとんどないため、発見が遅れることがあります。そのため早期に発見し、適切な治療を行うことが大切になります。

前立腺がんが疑われ受診されたら、まず腫瘍マーカー採血検査、直腸からの触診検査、エコー検査を施行します。そしてがんの疑いが強い場合は、入院での組織検査『前立腺生検』を提案します。その結果、がんの診断を受けた場合、がんの進行程度を確認した上で治療を検討します。最初の治療としては手術治療、放射線治療、薬物治療、そして無治療経過観察があります。年齢や合併症、がんの進行程度、本人の希望等を相談しながらもっとも良い治療を決定します。

前立腺肥大症は前立腺の病気のなかでもっとも多くみられる良性の病気です。加齢に伴い前立腺が肥大し尿道を圧迫することで排尿障害を引き起こします。受診されたら自覚症状の問診をし、尿の勢い、残尿量を検査した上で治療方針を検討します。

治療はまず薬物治療を開始するのが一般的ですが、それでも改善が乏しい場合は手術治療を提案します。

前立腺専門外来は月・水・金の午後です。この時間帯では基本的に紹介専用とし待ち時間の短縮を図っています。ただ泌尿器科一般外来（月～金・午前）でも前立腺の病気を診察していますので、ご都合により安心して選択して頂いて結構です。

これからも皆様の健康を支えられるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

訪問看護ステーション 桐の芽 開設

桐生厚生総合病院では、住み慣れた家で、自分らしく過ごしていただくために訪問看護室を 2023 年 4 月に開設し、病院からの訪問看護を実施してきました。この度、2025 年 5 月に訪問看護ステーションを開設します。

訪問看護について

訪問看護とは、看護師がご自宅に訪問して、その方の病気や障害に応じた看護を行うことです。健康状態の悪化防止や回復に向けてお手伝いします。

営業時間は平日 8 時 45 分～ 17 時 30 分です

休日：土曜・日曜・祝日 年末年始 12 月 29 日～1 月 3 日

※希望者には電話対応により 24 時間体制をとり、必要時訪問します。

訪問看護対象者

訪問看護は全ての年齢の方が対象で、医師が「訪問看護指示書」を発行した利用者に対し、訪問看護を提供します。ただし、年齢や疾患により保険（医療保険・介護保険）が異なります。

お問い合わせ先 0277-44-7171（桐生厚生総合病院代表番号）内線 700 番

「その人らしく穏やかに過ごせるお手伝いをしたい」

という想いを胸に、訪問看護ステーションを開設します。
この想いを地域の皆様に知っていただき、開設に伴う広報の一環として

「クラウドファンディング」 に挑戦します。

皆様からの寄付金は、訪問看護に使用する車や設備に使用します。

6 月 2 日より寄付金受付開始

詳細は後日病院内掲示や

ホームページで公開



令和6年度

災害訓練の実施

令和6年12月14日（土）に令和6年度災害訓練を実施いたしました。

昨年度は、当院近隣での局地災害（大型バス事故）を想定した訓練を行いました。今年度は、桐生地域での震度6強の地震の発生を想定した大規模災害訓練を行いました。

地域災害拠点病院として、当院のBCP（事業継続計画）（※1）に基づいた患者・職員の安否確認及び被災状況の確認等の災害時優先業務を行いながら、建物の倒壊等により搬送される傷病者のトリアージ（※2）及び救急治療に係る多数傷病者受入訓練も桐生市消防本部、公立館林厚生病院（DMAT※3）及び桐生大学看護学生（傷病者役）にもご協力いただき、実施することができました。

今後も訓練を通じて課題となった、BCP（事業継続計画）等の見直しを行い、災害時に迅速かつ継続的に対応できる体制を構築できるよう努めていきます。

（※1）BCPとは、「Business Continuity Planning」の頭文字を取った言葉で、日本語では事業継続計画と訳されます。事業継続計画とは、自然災害やパンデミックなどの緊急事態が発生した際に、患者・職員の安全を守り、事業を存続させるための計画のことです。

（※2）トリアージとは、負傷者を重症度、緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決めることであり、救助、応急処置、搬送、病院での治療の際に行うことです。

（※3）DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で「ディーマット」と呼ばれ、災害時の急性期（発災から48時間以内）に活動を開始できるよう訓練された医師、看護師等で構成する災害派遣医療チームのことです。



第71回

桐生市堀マラソン大会への支援について



第71回桐生市堀マラソンが、令和7年2月9日（日）に開催されました。

参加ランナーが安心して走れるよう、桐生厚生総合病院から医師4名、看護師19名がドクターランナー・ナースランナーとして登録し、大会を支援いたしました。

開会式では、ドクターランナー代表として小児科の関根医師が、ナースランナー代表として廣町看護師が登壇いたしました。

ドクターランナー・ナースランナーは、医師、看護師が一般のランナーと一緒に大会に参加しながら、周囲のランナーの観察や、不調なランナーへの声かけ、不慮の事故に遭遇した場合の初期対応をボランティアで行っています。



桐生厚生総合病院の新ロゴマークが決定しました!

令和5年4月1日から「桐生地域医療企業団」として新たにスタートし、令和6年2月11日で開院90周年を迎えたことから、広く住民から親しまれるような新ロゴマークの募集を行い、皆様から多数のご応募をいただきまして、心より感謝申し上げます。

採用作品については、病院ロゴデザイン選考委員会にて厳正な審査の結果、以下のとおり決定し、令和7年2月10日に発表会及び表彰式を挙行いたしました。

今後、各種広報活動での使用を予定しており、現在のロゴマークは、順次変更していきますので、何卒よろしくお願いいたします。

旧ロゴマーク



【旧ロゴの作品説明】

緑→健康、赤→病気を意味し、赤を後ろに配置することで、健康な人でも病気が潜んでいることを表現したロゴマークでした。



愛称
ツナグ

採用作品

商標登録出願中

ツナグについて

患者さんと病院との関係性をロゴにしてみました。

「信頼され、心が通う地域医療」という基本理念をもとに、患者さんと病院が手を取り合っているように。

また、少し組み替えるとハートマークとニコリした目元になるようにしました。

昔から医療には「手当て」という言葉がある通り、手は入れたいと考え、作りました。

桐生厚生総合病院公式Instagram開設!



@KIRYU_KOSEI_GENERAL_HOSPITAL

桐生厚生総合病院公式Instagramを開設いたしました。
院内イベント、採用に関する情報等随時更新していきます。
ぜひ「フォロー」や「いいね!」をお願いいたします。

【閲覧方法】次の方法でご覧ください。

- ①Instagramにてアカウント(kiryu_kosei_general_hospital)を検索
- ②QRコードの読み取り